村づくり日本一

西村　富明
（沖永良部国頭・西村書斎主宰）

沖永良部の「国頭学誌」によると、1977年に国頭（字）村づくり委員会が設立された。以来、豊かな村づくりを積極的に推進してきた。

92年11月、全国農林水産祭の「村づくり部門」で国頭村づくり委員会が天皇杯を受賞した。奄美群島初であり、続いて2002年には知名町の正名字が天皇杯を受賞した。

国頭字が受賞した理由はいろいろある。1991年の農業粗生産額は1戸当たり843万円で県下でもトップクラス。厳しい自然の中、生産向上を図る一方、ユイ（共同作業）に象徴される老若男女一体となった農業への取り組みや情熱、年に2、3人の若者がUターンしてくる魅力的な村づくりなどが評価された。

私も同感であり、このような状況は、今日まで続いていると考えられる。沖永良部で2つの字が日本一に輝いたことは、島民の誇りである。

2013年11月には、村づくり天皇杯受賞20周年記念行事が実施された。この行事の一環として、農業の現状を調べた。上層農家を当時と比較した。700万円以上販売農家、つまり上層農家が、1990年には国頭は31農家で和泊町の36％を占めていた。2010年の国頭の上層農家は64戸で、和泊町の27・4％を占めている。この比較から、現在でも国頭の農業は、和泊町の農業をけん引していることがわかる。

国頭字は現在も「住み良い字づくり」に取り組んでおり、新しい行事が3つも誕生した。1つはピンピンサロン。高齢者の語りの場として月1回体を動かし、歌を歌って100円の参加費で茶菓を準備し、お茶を飲みながら楽しく語っている。2つ目は十五夜祭り。旧暦の9月15日に、字民が一重一瓶で岬神社に集まり、五穀豊穣を祝う。きれいなお月さんを眺めながら飲む黒糖焼酎はおいしい。3つ目は、8月1日の表忠碑での慰霊祭。戦没者の遺族と字民が一体となって、平和を願い慰霊祭を行っている。これも一重一瓶持参である。

最後に、字民の自力で「国頭字誌」、「国頭小学校創立100周年記念誌」、「国頭芸能のあゆみ」等を刊行した実績もたたえたい。